MCPC award 2014 モバイルパブリック賞

芽室町農業協同組合

>>>DATA

業種	非営利組織
活用分野	農作業の効率化、情報共有
テクノロジ	GPS、クラウド、NFC
端末	タブレット、携帯電話

小麦の収穫時期を逃さず大幅効率化 農家の知恵とICTの融合を支援！

643戸の農家の平均耕作面積が東京ドーム6.7個分（31.5ha）という北海道芽室町では、芽室町農業協同組合（JAめむろ）が中心となって農作業の機械化とともに、早期からIT活用にも意欲的に取り組んできた。

その成果の1つとして、モバイルを有効活用したものが、小麦の収穫作業の効率化を実現したクラウド型システム「Good Timing」である。

コンバインへの給油作業と集荷時の情報伝達を大改革

「Good Timing」は、①コンバイン向けの「給油支援システム」と、②収穫情報をリアルタイムに共有できる「収穫支援システム」で構成される。

①は、JAめむろが所有する40台の大型コンバインにGPS機能付き携帯電話を設置し、その位置情報を給油車側で携帯するタブレットで確認しながら効率よく給油に向かう仕組み。「以前は給油車の停車場所にコンバインが移動していましたが、GPSによって逆転の発想が可能になりました」と、管理部 管理経理課 課長補佐の山口正広氏は話す。

②は、小麦をJAの施設に運搬する際に、従来はハンディターミナルで行っていた収穫情報の入力をタブレットに移行したもの。入力データはクラウドだけでなく、トラック運転手が持つNFCカードにも書き込むため、運搬状況の見える化も実現している。

さらに、JAめむろが10年以上前から運用しているリモートセンシングと衛星画像を用いた「小麦収穫適期予測システム」も統合。組合員に紙の資料で提供していた予測情報を、タブレット上でチェックできるようにした。

モバイル環境を生かした新たなIT活用策も浮上

「Good Timing」の導入により、組合員・職員、給油や収穫物搬送を委託している業者のいずれも大幅な業務効率化、コスト削減を実現できた。

営農部 農業振興センター 次長・センター長の西谷洋人氏は、営農情報の配信にも活用したい意向だ。「電話やFAX、紙の資料での情報提供には限界があります。タブレットならよりわかりやすく、迅速に伝えられます」と期待する。

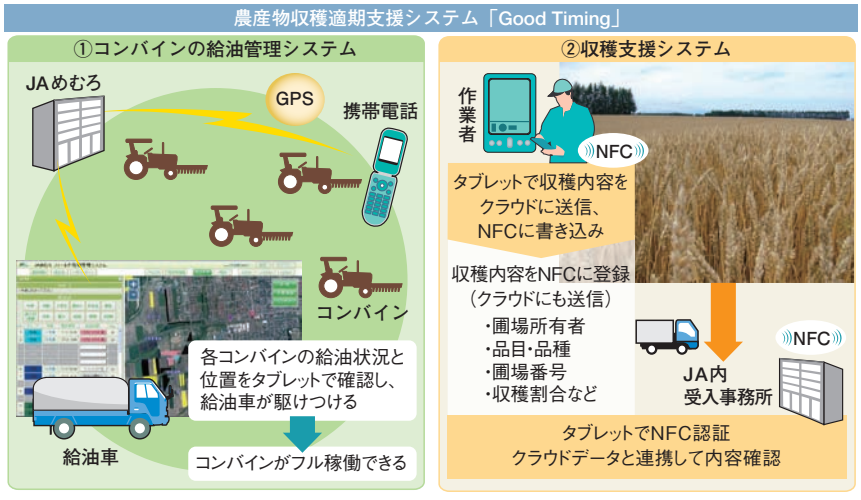
実は、組合の青年部からもアイデアが持ち込まれている。「ソーシャルネットで情報共有したいという要望を受けて、セキュリティを担保するために組合側でシステム開発を進めています」と、営農部 農業振興センター 農業振興課 主幹の柴田秀己氏は明かす。

IT活用への積極的な取り組みが、モバイル導入によって加速し、さらなる広がりを見せていきそうだ。

管理部 管理経理課 課長補佐　山口正広氏

営農部 農業振興センター 次長・センター長
西谷洋人氏（写真左）
営農部 農業振興センター 農業振興課 主幹
柴田秀己氏（右）

図　「Good Timing」の概要



Profile

芽室町農業協同組合 http://www.ja-memuro.or.jp/	本社所在地	北海道河西郡芽室町西4条南1-1-9	事業内容
	設　立	1948年3月16日	組合員である農家の経営・業務支援等。組合員戸数は643戸（2013年6月末現在）。主要作物は小麦、甜菜、馬鈴薯、豆類および畜産